

和歌玄之集

能因法師撰



全

^ 4  
2101  
1





門利4  
第2/10/1  
卷

藤野深氏遺愛之記

玄之集

僧能因撰 古言部入道

和詩者本朝之風俗也源流起於神代

雅 詠盛于人也是以延喜御宇之時紀貫之

奉勅撰玄之亦玄二百六十首其外撰集

之家往々有之今予所撰者永延已來寬

德以往篇什也知不和當時之褒貶只憶向

後之消沒之故也上自王后下至士女粗擢

其間之史科聊叙此道之中興而已





玄々集

内融院沛製二首



若菜

春日たほろろとけしむるも  
かたはらけしむるも  
かたはらけしむるも

おしん院が  
花の  
花の

山依の時樹下より行道



本の下とす...  
富ら...  
...  
...  
...

前一条院一首

く...春のは...香殿...  
...

...  
...

中務親王二首

...  
...

月...  
...

...

...

入道友二首

前一条院...  
...

...

...



何系大納言の技はのまはこころ

首のくちまはこころのまはこころのまはこころのまはこころ

傳大納言の道調こそ

七月七日せらるる

夕のしほのまはこころのまはこころのまはこころのまはこころ

日大納言の母七首

大入道後よりつらなるまはこころのまはこころのまはこころ

まはこころのまはこころのまはこころ

まはこころのまはこころのまはこころのまはこころのまはこころ

わがわがの柳の糸はまはこころのまはこころのまはこころ

みちのくちまはこころのまはこころのまはこころのまはこころ

大入道よりまはこころのまはこころのまはこころのまはこころ

まはこころのまはこころのまはこころのまはこころのまはこころ

傳中守の格普のまはこころのまはこころのまはこころのまはこころ

まはこころのまはこころのまはこころのまはこころのまはこころ

まはこころのまはこころのまはこころのまはこころのまはこころ



新...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

道信平...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

因...  
...

...  
...  
...



為基二首

~~~~~

~~~~~

~~~~~

重之五首

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

隆奥守信明

~~~~~

~~~~~

惠慶法

~~~~~

~~~~~

~~~~~



あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき

あはれなる心はなほわづらひしき











あまのこゝろをいかにいかにたのむかきつらき  
しなをたしむるもかきつらき  
又殿

伊の白きゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
前女院二首 天曆皇女也

たのむもいかにいかにたのむもいかにいかに  
前二宮のいかにいかにいかにいかにいかに  
たのむもいかにいかにいかにいかにいかに

はたしむるもいかにいかにいかにいかにいかに  
師大信13一

いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに  
白のいかにいかに

一条院内時右宮は  
いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに



為頼一首

世の中ちもいふにふくむるはたはあはれなる

橋道時一首 傳中守仲遠男

~~~~~

まじり鳥のまじりていふは旅のつかひ中守仲遠男

長純十首 上総守

あはれなる世の中ちもいふにふくむるはたはあはれなる

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

あはれなる世の中ちもいふにふくむるはたはあはれなる



わさくしとちやまがまらうんえき<sup>ハ</sup>のあしめさなま<sup>ハ</sup>のき<sup>ハ</sup>

源為憲一首 伊賀守

たはつふ伊りあんとあのみもたつたつてあきあのみあ

とあふのきき一首

たはつふ入まの境のきき今日あのみあ

え古よてきくらあきあきあきあきあきあきあきあき

清照法橋一首

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあき一首

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

のきき一首

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあき一首

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

馬内侍二首



うらうらと葉斗くかし後やとたぬて感へるるも  
あまのふ但馬よとくると月とていひかゝる。

あしひ君伊つし方里の月とて都に誰とあしひは  
いしまらる石と中宮よゆてまつりる人

つらり

とあしひとあまのなを石とていひかゝるるも

言一首

字治よて

あしひよとあまのなを石とていひかゝるるも

取香殿世帯一首

一糸院しむとらねと月よらて

あしひよとあまのなを石とていひかゝるるも

観教僧都一首

あしひよとあまのなを石とていひかゝるるも

あしひの世一首

前女院若庫隆奥身からとていひかゝるるも



あしはらふの馬のふるまひをりて<sup>秋</sup>

あしはらふの馬のふるまひをりて

中将左一首

あまのふりしるは

あまのふりしるは

兼光一首 加賀

あまのふりしるは

祐季二首 駿河守従五位上

あまのふりしるは

あまのふりしるは

程村一首 <sup>秋</sup> 加賀

あまのふりしるは

千早振神<sup>秋</sup>

あまのふりしるは

あまのふりしるは

あまのふりしるは



孝宣一首 儒者

為義胡在人のりてよよんせうだ

こころをまこととすよと人ほよらむはのよき事なり

橋為義一首 在徳院

まはりのこころをこころとすよと人ほよらむはのよき事なり

頼光一首 但馬守

中よりこころをまこととすよと人ほよらむはのよき事なり

喜言一首

よよとこころをまこととすよと人ほよらむはのよき事なり

日々よとこころをまこととすよと人ほよらむはのよき事なり

屏風よとこころをまこととすよと人ほよらむはのよき事なり

よよとこころをまこととすよと人ほよらむはのよき事なり

よよとこころをまこととすよと人ほよらむはのよき事なり

正言一首

よよとこころをまこととすよと人ほよらむはのよき事なり

よよとこころをまこととすよと人ほよらむはのよき事なり















源氏物語の巻のついでに

清女納言一首

よきことばはまはれ我はきこひのよきことばを

友原唐葉一首 赤い

伊の国の

文のよきことばはまはれ我はきこひのよきことばを

小舟成歌一首

くささかたのよきことばを

しづかによきことばを

道令阿彌歌一首

休なよきことばを

都のよきことばを

増喜二首

胡なよきことばを

ちのよきことばを

しづかによきことばを











後一條院春日行幸せらるる御紀行の御後

かくおのころのたぐも

みづのうらみもよそよそとみゆきもよそよそと

此等二首 後一條院の御紀行をよめる

天よまきくも井とよき

よこらまきくも井とよき

小一乗院一首

旅雁

まはれむらさきとて

園白殿三首

そらとて

あつらへん御紀行の御紀行をよめる

あつらへん御紀行の御紀行をよめる

あつらへん御紀行の御紀行をよめる

心在秋山

あつらへん御紀行の御紀行をよめる







五女郷とに

うらそていふふ女あぢやうらあそらう今うまに

後平一首 加賀守

二月十五夜

おまゝいひららるるおのれおのれおのれ

家經一首 喜政

おこいめいふふ今よこらおのれおのれおのれ

大輔一首 ときけらうの位女

らうる魚いふふおのれおのれおのれおのれ

さくさく一首 ときんらうの書女

たかたかたかたかたかたかたかたかたかたかた

長回一首 大陽の女記

月よしきいふふおのれ

月よしきいふふおのれおのれおのれおのれ

中ね乳母一首 前女院人

あうのいふふおのれ隣院いふふおのれおのれ



しまりしるよふまはる日

の夜とるよものり波きぬらんや

舟一首一品宮出羽

このころよくらりくらり教さぬ

侍従内侍一首

暁のころくはるのころくはる

おはきくせん枝の海へ舟かちん

舟廿一首 由こんたの

さしこころのよふまはる日

ざらり一首 大和義忠也

さしこころのよふまはる日

舟一首 舟一首

おはきくせん枝の海へ舟かちん

尾張守範永

遍照寺の月とみ

まじくよまのころのよふまはる日



以上二行以他本書入之

如云

寶治二年春天下旬之空書字畢  
被催志之深不知若老之及而已

又云

正和第五曆暮春上旬之依命終書字

文政五年六月九日以下年換西

5.



